

新井中央小だより

No. 272

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp

2022（令和4）年5月27日

「命」について

5月の全校集会では、「命」について、3つの話をしました。全体的に小学生には少し難しい内容となってしまいましたが、みんな最後まで頑張って聞いてくれました。

1 命は、自分に与えられた「時間」であること

1メートル物差しを使って、「人生100年物差し」を作ってみました。一目盛り10年の、ごく簡単なものです。「校長先生は今この辺り。先日亡くなってしまった校長先生の母親はここ、新井中央小学校のみんなはこの辺り」と、シールを貼りながら、寿命という時間の長さを大まかに示し、命とは、その人に与えられた時間であり、0歳から100歳までの1本の横線は、実は細かな一つ一つの「点」、つまり大切な「毎日」ひいては「今」の連続・積み重ねであること。人生100年の時代を生きる子どもたちにとって、まだたくさん時間があるけれど、その時間を交通事故や病気のために途中で終わらせて欲しくないこととお話ししました。

2 命は「連続」であること

自分が生まれたのは、両親がいてくれたからです。その両親も、それぞれの両親がいたから存在できました。そう考えると、親の代が2人、祖父母の代が4人、その前の代が8人、16人、32人…と、代を遡るごとに、所謂「先祖」の数は増えていきます。1世代を約30年として、10世代約300年遡ると（江戸時代）、単純計算で1024人。更にもう10世代約600年前まで遡ると（室町時代）、もう100万人を超えてしまいます。これが、鎌倉、奈良、いや弥生、縄文と遡っていったら、どうなってしまうのでしょうか。そして、その中のたった一人でも抜けてしまったら、現在の「私」は存在しないこととなります。この「私」に繋がる連続性は、まさに奇跡と形容するしかないと思います。

3 命は「戻せない」こと

物語やマンガ、ゲームの世界とは違い、私たちの命に取り返しや、リセットボタンでのやり直しはできません。この先、辛いことがあろうとも、それを上回る楽しいことが山ほどあるはずです。おいしいものを食べて、友達と楽しく過ごして、夢を叶えて、と子どもたちには限りない可能性があります。でも死んでしまったらそこで終わりです。大好きなラーメンやケーキを食べることも、サッカーすること、本を読むこと、笑うこと、走ること、悔しさに奮起することも、命がなくなったら、そこで終わりです。

さらに、私たちそれぞれにとっての「大切な人」の命も永遠ではありません。生きているうちでなければしてあげられないこと、伝えられない言葉がたくさんあります。あとで後悔しないように、今できることは、ちゃんとその時その時でしてあげたり、伝えたりすべきであること。つまりは、今を、今日の一日を、大切にしたいものだ、という話をしました。

幸い事故にはなりませんでしたが、今年度、実際に当校でもボールを追いかけて道路へ飛び出してしまった事案等、地域から情報をお寄せいただき、指導しているところです。

学校でも具体的な交通安全指導等は、別途行いますが、その前提として、お子さんのそして私たち大人にとっても「たった一つのお互いの命」の大切さについて、ご家庭でも是非、話題にしていただければと思います。

（校長 村治 隆夫）